

# 景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

## 非製造業の景況DI値悪化が、 全体景況DI値に影響

### 【概況(全体)】

12月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが6.3%(前回調査7.5%)、「悪化」が50.0%(同48.8%)で、業界全体のDI値は-43.7となり、前月調査と比較し2.4ポイント下回った。

製造業、非製造業とも前月に引き続き、全国及び東北・北海道ブロックを下回ったことで、業界全体の景況DI値についても低調に推移した。

### 【業界別の状況】

好転としている業種は減少し、非製造業の一部で悪化割合が増加したことが全体の景況DI値を悪化させる要因となった。また、収益DI値については、製造業、非製造業とも悪化傾向が続いている。

12月は暖冬の影響を受けて、衣料品や家電などは例年に比べ、売上が減少している。このまま暖冬が続くとさらなる影響が懸念される。

また、働き方改革への対応、最低賃金引き上げを懸念する声も多い。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-43.7	-34.6	-35.4
製 造 業	-46.9	-39.8	-37.4
非製造業	-41.6	-30.7	-34.3

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10未満  
 雨 10未満  
 雷雨 30以下

### 【天気図の見方】

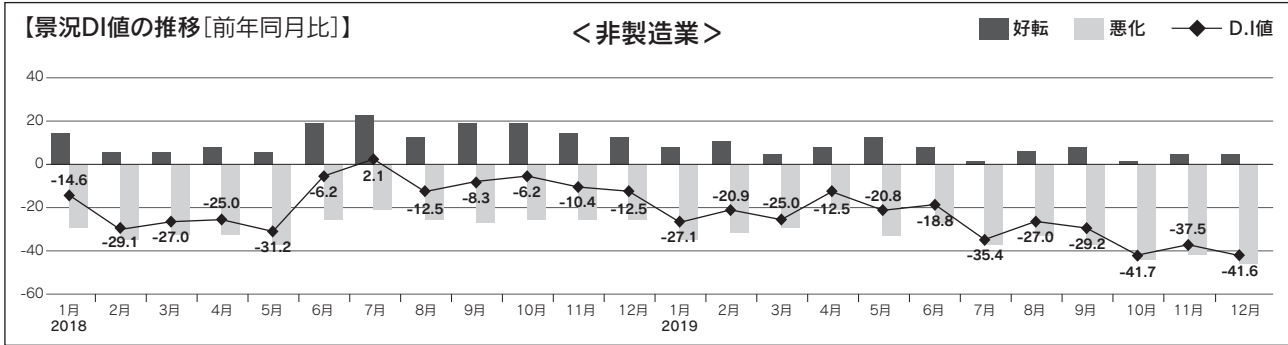
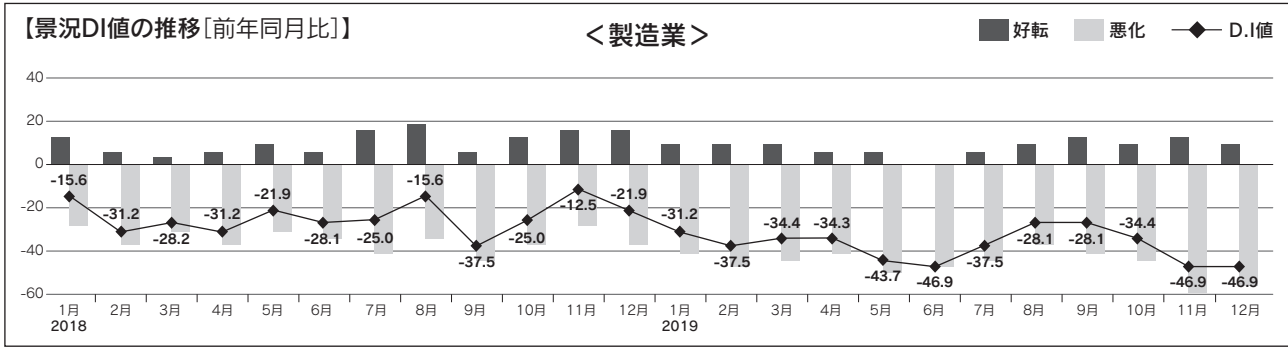
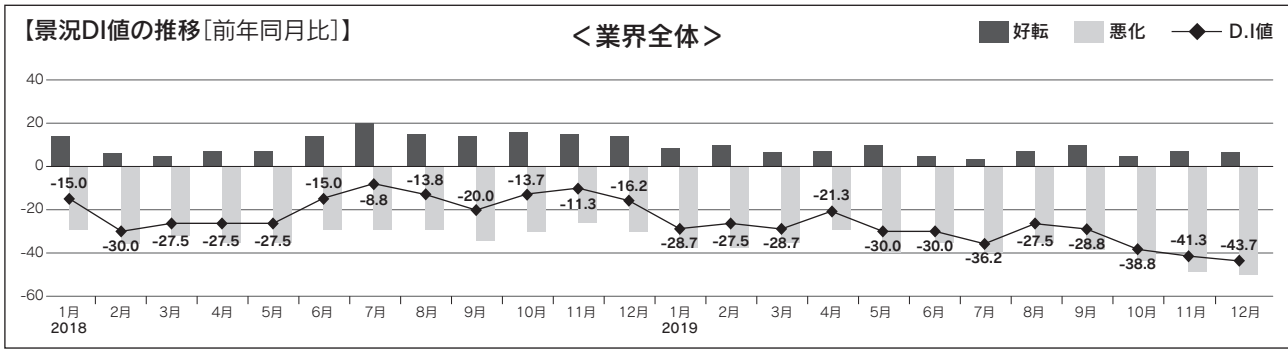
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 ( 豆 腐 )	天候が温暖で鍋物の需要が低く、売上は低迷した。季節感がなくなりつつあり、過去のよう な売れ筋商材という括りがなくなっている。
食 料 品 ( 製 麵 )	人口減少による市場縮小の影響から、好転の兆しがみられない。
織 維 工 業 ( ニ ッ ト )	先月に引き続き、春物の立ち上がり商品の投入が始まったが、平均ロット数が減少して いる。店舗数の減少と消費税増税後の買い控えの影響を意識しているようだ。各アパレル とも在庫を増やさないよう慎重に発注する傾向が強くなっている。
織 維 工 業 ( 織 維 )	消費税増税後、各アパレルとも販売が低迷し、受注量が減少している。
木材・木製品 ( 一般製材 )	12月は稼働日が少なく、生産量が上がりず半製品在庫が減少した。原木の入荷は安定し ており、製品の受注量は前年を上回っている。1月~2月は原木凍結のため、製材スピー ドを3割落として製材することから原木消費量も3割程度減少する見込みである。毎年 のことであるが冬期間の製材量の増加が課題となっている。
木材・木製品 ( 外 材 )	平成31年度の外材原木の入港量は、北洋材(ロシア)3船10,575m <sup>3</sup> 、北米材(カナダ)2船 10,673m <sup>3</sup> の合計21,248m <sup>3</sup> で、好調な市況を反映し対前年比では110.3%となってい るが、原材料の国産材化や半製品(単板)での輸入が進んでおり、外材原木の輸入量の減 少傾向は続くものと思われる。住宅需要は不需要期に入ったものの台風被災地の復旧需 要等も加わり、構造用合板及びフロア合板ともに需要は堅調であり、生産量の全量出荷 と在庫薄状況が続いている。
窯業・土石製品 ( 生コンクリート )	12月の出荷数量は前年同月比78%前後である。4月~12月累計で92%と想定され、12 月は全地区とも前年を下回る状況にある。今年度は当初出荷想定582,000m <sup>3</sup> (前年比 86.9%)を上回り、620,000m <sup>3</sup> (前年比92.6%)前後とみられる。
鉄鋼・金属 ( 鉄 鋼 )	見積依頼が極端に減少している。現在稼働している物件は受注済工事で2月以降の物件 はかなり減少すると懸念している。手持工事を確保している工場とそうでない工場のバ ラつきがあり、先行きは不安定である。
そ の 他 ( 漆 器 )	前月同様、工芸館の売上が前年度より上回っている。毎月15日の「椀この日」の割引セー ルが少しずつ浸透してきていると思われるが、これからは本格的な積雪の多い時期とな り、集客の減少が危惧される。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (米 麦 卸)	令和元年産米の12月末主食用米の販売進捗率は27.6%となり、前年同様の進捗を維持している。ただ、消費地での精米販売が落ち込んでいる現状から不安が残る。
卸売業 (青 果)	売上高は前年同月比93.5%で推移した。野菜は主力の生産地が関東圏内に移行したが、夏から秋口の台風などの悪天候が影響し、生産並びに連動する値動きも安定せず、売上は苦戦を強いられた。果物類に関しても、暖冬の影響で主力のミカンの動きが悪く、また、クリスマス商戦で主力となる栃木の苺が大雨被害のため、出荷量が大幅に減ったことが売上減少につながった。
小売業 (自動車)	12月の新車販売台数は、登録自動車1,585台(前年同月比87.5%)、軽自動車1,255台(同81.0%)、合計2,840台(同84.5%)と低調であった。登録車の車種別では、特殊用途車を除き全車種で、軽自動車についても全車種で前年同月を下回った。
小売業 (花 卉)	卸や仲卸などは、辛うじて前年同月とほぼ同じ金額の売上・買上額となっているが、仕入値が高値安定の状態、消費の落ち込みがまだ続いている。キャッシュレス決済の対応では、支払サイトの関係から運転資金に支障を生じている店舗もあるようだ。
商店街	消費税増税以降、販売額の減少が著しい。年末恒例の売出し抽選券も低調で売上確保に苦慮している状況にある。(大館市)
サービス業 (タクシー)	忘年会シーズンを迎え利用を期待したが、平日は普段とほとんど変わらず、利用は週末の金・土曜日に集中したようだ。加えて、日中は積雪もなく利用は少なかった。
建設業 (一般土木建築)	冬場の屋外の現場労働は天候等自然条件が厳しく、働き方改革への対応に伴うコスト増加は経営を圧迫している。
建設業 (電気工事)	大きな物件もなかったものの電気工はそれなりに多忙であったようだ。前年度と比べても大差なく、むしろ落ち込んだ感もある。
運輸業 (トラック)	中旬まではかなりの量の荷動きがあったが、下旬には荷物が全くなかった。運賃については、交渉の成果からほぼ希望通りの水準に近づいている。
その他 (砂 利)	年末にかけて骨材の荷動きは活発になる時期ではあるが、前年に比べて荷動きは鈍かった。